

所 信

社団法人一宮青年会議所

2009年度理事長 佐々 憲一

はじめに

私たちが子供のころ過ごした昭和という時代は、敗戦後の日本をなんとか復興しようという逞しい精神性をもった大人たちが頑張ってくださったおかげで、とても温かく、とても活気に満ちた時代でした。その中で育った私たちは、そういう時代を知っている最後の世代であるのかもしれませんが。学校では悪いことをすれば、先生に怒られビンタされることも頻繁でした。しかしそこには、先生たちの私たち生徒に対する溢れんばかりの愛情がありました。また放課後には、友達と公園に集合し、日が暮れるまで野球をしたり、川へ行って魚釣りをしたり・・・。そこには友達との深い友情と強い絆があったように思います。そしてそんなセピア色のたくさんの思い出がとても懐かしく思い出されます。それに比べ、この平成の時代は、そのころよりも格段に技術が進歩し、生活がどんどん便利になっていく反面、「自分さえよければいい」という利己主義が蔓延し、義理・人情・思いやりといった日本人として大切なものをどこかに置き忘れてきてしまったように感じてなりません。

2009年私たち社団法人一宮青年会議所は、その大切なものを取り戻し、日本に、またこの地域に生まれてよかったと思えるような活動をしてまいります。

一宮の未来の創造に向けて

今、世間では目を覆いたくなるような事件が毎日のように起こっています。それは説明するまでもなく、周知の事実でしょう。大切なものを置き忘れてきた結果が今、信じがたいような事件として起きているのだと思います。やはり最近の日本はおかしくなってきたのを感じずにはいられません。

モラルの低下がその一端でしょう。道路に無数に捨てられているゴミ、それを見ると私はとても心が痛み、そのほとんどは大人がしたことだと知る子供たちはどう思うのだろうかといつも考えます。

また家庭での教育にも問題があると思います。私も小学生の息子がいますが、通学時の旗当番の時に私が「おはよう！」と子供たちに挨拶を投げかけても、全く反応すら示さない子供が半数以上です。きっと親子間でも挨拶ができていないからなのでしょう。

そのような状況の中で、私たちが住んでいる一宮という^{まち}地域は、ガチャマンの時代が遠く昔のように、産業に元気がなく、38万人大都市にはなったものの名古屋のベッドタウンと言われるような現状にあります。しかし私は、この生まれ育った^{まち}地域が活気あり、心豊かな人が集う^{まち}地域であってほしいと切に思います。またそうするために私たちJCは、市

民がこの地域の未来を真剣に考える場を設け、「自分たちの地域は自分たちがよい地域にしていく」という気持ちを高めていくことで、市民主体の地域づくりに繋げることが必要だと考えます。

それと、この地域の未来を担っていく子供たちに将来への大きな夢と希望を与え、逞しい大人へと育成していきます。そのためには、まず私たちJAYCEEが、先の見えないこの時代を力強く切り開いていく気概をしっかりと持ち、人間として大切なことをしっかりと行動をもって教え、また私たち自身が生き活きとした姿を見せていかなければなりません。そうした大人の背中を見て、子供たちがその偉大さに憧れ、「将来ぼくたちもああいうかっこいい大人になりたい」と感じてもらえる行動をとっていくことで、また今後その子供たちが大人になった時、次の世代に背中を見せていってくれることでしょうか。

公益法人格取得へ向けて

今、社団法人である青年会議所は公益法人制度改革により、公益法人格取得へ向けて動き出しています。そもそも青年会議所は「明るい豊かな社会の実現」を旗印に活動をしている団体であり、2009年度はその取得に際しての準備段階として、公益法人として認められる実績を作る年と位置付けて活動していきます。また公益事業費が総予算の50%以上ということはもちろんのことですが、一番大切なのは所属するメンバー一人一人がそうした公益法人を目指す団体の一員であることを自覚すること。そして、自らを厳しく律し、襟を正した行動をとっていかなければなりません。

たくさんの出会いと学び舎であるJCに

私は、この青年会議所に入会し8年目を迎えますが、非常にたくさんの素晴らしい出会いを頂き、またその中からたくさんのことを学ばせて頂きました。それは、この青年会議所が思いを同じくする同志の集まりであり、またこの青年会議所の素晴らしくよくできた仕組みに他ならないからだと思います。そんな素晴らしい団体の中にありながら、入会当初は会社の社員にも自信を持ってJCに行ってくると言えず、違う行先を伝え、こそこそとJCの事業に行く日々が続きました。しかし、1年また1年と経つにつれ、自分自身もJCの中で学んだことを会社にフィードバックできるようになり、またその活動を通して、少しずつ人間的成長を家族、会社に認められるようになってきたころから、JCに誇りをもつことができるようになりました。やはり今思うのは、この厳しい経済環境の中、この偉大なる学び舎で学んだことをJC活動の基盤である会社の組織運営に持ち帰ることが私たちメンバーの大きな責務だということです。今こうしてJC活動をしていられるのも、送り出してくれている家族、会社のおかげであり、それに大いに感謝し、その期待にしっかりと応えていかなければならないのではないのでしょうか。

ここ最近では世相を表す漢字が「偽」という漢字で表わされてしまうような非常に情けない時世です。これからは、私たち青年経済人が率先して、「偽」ではなく信念・信頼・信

用という言葉にあるような「信」が代表される時代にしていかなければなりません。またその中で顧客との絆を深めていく経営をすると同時に、新しい価値を創造していく気概ある経営をしていく必要があると思います。そういう経営を学び、熱い志を持って実践することで生き活きとした夢ある会社づくりをし、それが社員を幸せにすることにつながり、企業が社会に貢献していく礎になります。また会社の規模は経営者の「器」以上にはならないと言われていますが、その「器」を大きくしていくために、このJC活動を通して「リーダーシップ」を培っていく必要があると思います。それには、お互いが切磋琢磨し、言われたことを真摯に受け止め、吸収していくことで成長していく、そんな偉大な学び舎であるJCにみんなで行きましょう。

元気あるLOMの創造へ向けて

現在、私たちのLOMは元気だと言えるでしょうか。事業への参加率の低下、退会者の増加、会員拡大がなかなか進まないなど、様々な諸問題、課題が山積みの中、LOMのメンバー同士の絆も希薄になり、それを象徴するかのごとくメンバー数も減少の一途をたどっているこの状況をとても寂しく思います。しかし、ここでそれを打開し、元気あるLOMを創造するために次の二つのことを実践していきます。

ひとつは、今在籍しているメンバー同士の強い絆を作ることです。それにはお互いがいつも信頼し合い、自分のことよりも他のメンバーのことを思い、相手のことをもっと気遣った行動をとっていくという利他の精神が必要です。そうすることで最終的に素晴らしい財産が自分自身に得られると信じて。

それともうひとつは、会員拡大です。会員拡大は明るい豊かな社会の実現に向けてのJC運動を継続していくうえで必要不可欠であり、それには、ひとりひとりがJC活動をもっと真剣に行い、JCの良さを体感することだと思います。「JCは頑張った分だけ、必ず自分に帰ってくる」、その体感があれば、これから入会を考える人を必ず導けるはずだし、おのずと言葉に説得力がついているに違いありません。自信と誇りを持って、新しい仲間を増やしていこうじゃないですか。私は理事長として、先頭を切って会員拡大をしていきます。現在70名ですが、2010年の年頭には正会員予定者を含めて120名でスタートできることを目標に頑張っていきたいと思います。

このふたつを必ず実践し、社団法人一宮青年会議所をみんなで元気なLOMにしていきましょう！

結びに

2009年社団法人一宮青年会議所は溢れんばかりの愛情・人情を携えた熱い背中を見せる行動でJC運動を展開して参ります。そして楽しく感動ある1年にしたいと思います。どうか皆様方の暖かいご支援、ご協力をこころよりお願い申し上げます。